

コンプライアンス基盤を強化し “優良企業&成長企業”を目指す 時間管理ビジネスの最大手アマノ

全国80拠点に分散するIT資産を LANDesk Software製品で一元管理

サーバやクライアントPCのセキュリティ対策は、今や、企業のコンプライアンス対応と切り離せない課題となった。セキュリティ・ホールの放置や資産管理体制の不徹底は、企業価値を著しく損なわせかねないのだ。ただ、保有資産が多く、事業所が多岐にわたるような企業にとっては、すべての資産を一元管理することは容易なことではない。そんななか、時間管理ビジネス最大手のアマノでは、LANDesk Softwareの統合管理ソリューションによって、システム運用管理とセキュリティ管理を一元的な管理基盤に統合した。本稿では、アマノの事例を通して、LANDesk Software製品の導入効果を探りたい。

事業成長のなかで急務となった コンプライアンス対応

1931年にタイムレコーダー製造で創業したアマノ。以来、「人と時間」「人と環境」を企業テーマとして掲げ、時間情報システム、パークینگ、環境、クリーンシステムなどへと事業の幅を拡大してきた。また、インターネットによる社会構造の変化を積極的にとらえ、既存事業領域の「e-Business化」を推進。パークینگ事業において、クレジットカードやICカード、電子マネー、インターネット認証などを用いたシステム・ソリューションとサービスを提案するなど、新しい市場創出に向けた体制の強化ならびに充実に努めてきた。

そうした事業成長のなかでアマノが直面したのが、CSRやコンプライアンス対応といった課題である。なかでも、早急な対策が求められたのが、個人情報や顧客情報の保護をはじめとするセキュリティ対策だった。その背景を、同社の理事であり、情報システム部長を務める佐川泰広氏は、次のように語る。

「当社は全国各地に支店・営業所、事業所80拠点を展開しており、そこで利用しているITプラットフォームは、サーバが約200台、クライアントPCが約3,000台にも及ぶ。これらを全体として十分なセキュリティが確保できるよう、一元的に可視化して管理できる仕組みの導入が必要だった」



アマノ 理事 情報システム部長 佐川泰広氏

そして同社は、2005年末にコンサルティング会社のアドバイスを受けながらセキュリティ・アセスメントを実施。その結果に基づいて、統合的なセキュリティ対策を提供する製品やソリューションの選定に着手したのである。

システムとセキュリティを 統合管理する2つのスイート製品

一口にセキュリティ対策といっても、ソフトウェア資産管理や情報漏洩対策、ウイルス/スパイウェア対策、パッチ管理など、解決しなければならない課題は、非常に広範囲にわたる。これらの課題に対して、個別にソリューションを導入して対応するとしたら、管理者はツールごとに異なるコンソールで操作を行わなければならないと、作業負担は増していくばかりだ。少数のスタッフでシステムを運用しているアマノにとって、そうし

アマノ株式会社

COMPANY PROFILE

名 称:	アマノ株式会社
所 在 地:	神奈川県横浜市港北区大豆戸町 275番地
設 立:	1945年11月22日
代 表 者:	春田 薫 (代表取締役社長)
資 本 金:	182億3,958万円 (2006年3月末現在)
売 上 高:	連結797億4,300万円、 単独636億1,900万円 (2006年3月期末)
従 業 員 数:	連結2,980人、単独1,953人 (2006年3月末現在)
U R L:	http://www.amano.co.jp/

た作業の負荷の増大はどうしても避けたいことだった。

そんななかで注目したのがLANDesk Softwareが提供するシステム運用管理とセキュリティ管理を統合したソリューションである。具体的には、複数拠点に分散するクライアントとサーバを一元的に管理するために、システム運用管理のスイート製品「LANDesk Management Suite」を、マルウェア(スパイウェアなど)対策やセキュリティ・パッチ配布といったセキュリティ対策のために、統合セキュリティ管理のスイート製品「LANDesk Security Suite」を導入した。

これら2つのスイート製品は、機能のすべてを同一のコンソールから操作することができるよう設計されている。そして、この2製品を合わせて利用することで、ハードウェアのインベントリ管理から、パッチ管理、ローカル・アカウント管理、ファイル交換ソフトの使用禁止、持ち込みPCの使用禁止、マルウェア対策などといったように、機能間に「すき間」のない統合的なシステム/セキュリティ管理プラットフォームが実現できるのである。

各機能がカバーする範囲に微妙なズレがあったり、管理者が各機能をバラバラに管理しなければならないかたたりすれば、それ自体がセキュリティ・ホールにもなりかねない。アマノに対して、今回のソリューション提案を行なった、ウチダインフォメーションテ

